

I 目的

私たちは環境科学課程の学生として、龍谷の森での学びを活かし、マツタケの復興を通じて森林管理への理解を深め、瀬田学舎の活性化につなげることを目的とした。

II 原因

かつて龍谷の森はマツタケが採れていたが、エネルギー革命により里山の管理が放棄され、マツタケの生育に適した環境が無くなった。

III 調査

マツタケの生態について知るため、文献だけでなく、マツタケを育てる活動をしている方や、瀬田丘陵地(現：龍谷の森)で実際にマツタケを採取したことのある方へ話を聞きに行った。そこで知ったことを3つまとめる。

岩倉地区への視察訪問

京都市左京区岩倉地域で活動している『まつたけ山復活させ隊』へ見学に行った。アカマツの生育条件である、急斜面・乾燥した土地が実際どのようなものであるかを見ることができた。さらに、間伐や日照量、水はけなど、技術的な観点から、マツタケに適した環境について学ぶことができた。

マツタケの歴史について

瀬田丘陵地での里山利用について、以前は、地域住民の方が草刈りや落ち葉の焼却をして環境維持をしていた。しかし、エネルギー革命後、里山を利用することがなくなり、その結果、マツタケに適した環境にはなくなっていった。このような、マツタケや里山について話を、南大萱資料室の方に伺った。

各自の調査

現地での見学や昔の話を聞くだけでなく、各自でマツタケの生態や里山保全についてWEBサイトや文献などを用いて調査した。その結果を基に、報告会を実施し、お互いの知識を深め合った。自分たちで調べたことをプレゼン形式で発表することにより、全員の知識を一致させることもできた。

IV 活動

里山保全の会のメンバーと共に龍谷の森でマツタケを通した里山管理を行った。またオープンキャンパスでは、活動を通してマツタケや里山保全などを発信した。

里山保全活動の参加

龍谷の森では月に1度「里山保全の会」が活動しており、さまざまな団体が参加している。私たちMATSUも6・7月の活動に参加し、アカマツが生育しやすい環境づくりのため周囲の木々を伐採した。また、大学内のミツバチ研究会と協力し、共生にも配慮した。作業を通して里山管理の難しさや体力的な大変さを実感し、人の手による管理の重要性を学んだ。一方で、マツタケ菌の有無を確認しないまま、周りの木々を伐採する等の環境整備を進めてしまった。マツタケの胞子を撒くことで、再生する方法も考えられるが、様々な方法を模索せず、1つの方法を過信して活動を行ったが、この反省点を活かして科学的根拠に基づく活動を行うことでより良くなるのではないかと考える。

オープンキャンパス

調査の中で、アカマツの稚木が生育しマツタケが出現するまで約20年かかることが分かった。そこで活動を継続するため、InstagramやYouTubeなどのSNSを活用しつつ、オープンキャンパスでの広報を実施した。夏のオープンキャンパスでは「龍大生と里山を歩こう!」「龍大生と里山を知ろう!」を開催し、多くの高校生や保護者の方にご参加いただいた。展示やツアーを通して、マツタケや里山の大切さを伝え、環境科学課程の魅力を発信できた。人前で説明する貴重な経験にもなり、今後の活動への意欲が高まった。また、参加者を対象としたアンケートでは、「イベントに参加した満足度」を5段階評価で実施したところ、平均4.39点であった。



V 今後の展望

今後は、活動の内容をまとめた報告書を作成し、来年度以降に里山保全やマツタケの生育調査に関心を持つ学生が活動を始める際の手がかりにしてもらえるようにしたい。これまでの自分たちの経験が、次の挑戦のきっかけとなっていきたい。

今までの活動をここから確認できます!

～マツタケが香る里山づくり～



広報誌「龍谷」100号



ZTV / YouTube
ニュースのつぼみ



Instagramアカウント